

市内中小企業景況調査結果（平成28年7～9月）

全般的に悪化傾向が進む。特に製造業が深刻化。

下関商工会議所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第2四半期（平成28年7～9月期）の調査結果を報告します。

- 調査時点

平成28年9月1日

- 調査対象時期

平成28年7～9月期状況、平成28年10～12月期見通し

- 調査回答企業数

40社：建設業7社、製造業7社、卸売業8社、小売業9社、サービス業9社（回収率80%）

- D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

【概況】

市内中小企業の景況をみると、前期（4～6月期）に引継ぎ悪化で推移している。全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期（28年4～6月期）と比較して11.1ポイント悪化し、D Iでは $\Delta 40.0$ となっている。業種別には、小売業で若干改善し、サービス業は横ばいで推移しているものの、建設業、製造業、卸売業は一層の悪化となっている。

先行きについては、全業種では11.0ポイントの好転となり、D Iでは $\Delta 29.0$ の見通しとなっている。業種別にみると、建設業、製造業、卸売業、サービス業は改善の見通しで、小売業のみ悪化の見通しとなっている。

- 今期（28年7～9月期）の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期（28年4～6月期）と比較して、11.1ポイント悪化し、D Iでは $\Delta 40.0$ となっている。

業種別の業況をみると、卸売業では25.0ポイント悪化し、D Iは $\Delta 50.0$ となっている。サービス業はD I $\Delta 22.2$ ポイントで変化なし。製造業は、前期の $\Delta 66.7$ から4.7ポイントとさらに悪化し、 $\Delta 71.4$ と前回の最低値をさらに上回る低い数値となった。建設業は、 ± 0.0 から $\Delta 28.6$ へ悪化。小売業は4.2ポイントと僅かに改善し、D Iは $\Delta 33.3$ となっている。

〔売 上〕

全産業で見ると前期（28年4～6月期）と比較すると9.9ポイント改善しているが、D Iは $\Delta 37.5$ と悪化のまま推移している。業種別にみると、小売業では29.2ポイントプラスと大幅改善したものの、D Iでは $\Delta 33.3$ にとどまっている。サービス業は、22.2ポイントプラスで $\Delta 33.3$ から $\Delta 11.1$ と好転している。建設業も14.2ポイントプラスとなり、D Iは $\Delta 28.6$ となっている。製造業は若干悪化で、D Iでは $\Delta 57.1$ となっている。卸売業では12.5ポイントの悪化となり、D Iは $\Delta 62.5$ となっている。

〔採 算〕

全産業で見ると前期（28年4～6月期）と比較して、0.5ポイント悪化し、D Iでは $\Delta 40.0$ と横ばいとなっている。業種別にみると、製造業はD Iで前回の $\Delta 33.3$ から $\Delta 85.7$ へと大きく悪化し、厳しい状況が続いている。建設業は、プラス28.6ポイントで、D Iでは $\Delta 14.3$ まで戻している。卸売業もプラス12.5ポイントでD Iでは $\Delta 37.5$ となった。小売業でも5.6ポイント好転しているが、D Iは $\Delta 44.4$ とマイナス域での推移が続いている。サービス業は変化なく、D Iは $\Delta 22.2$ にとどまっている。

〔資金繰り〕

全産業で見ると前期（28年4～6月期）と比較して、7.5ポイント好転し、D Iでは $\Delta 23.1$ となっている。業種別にみると、製造業では8.6ポイント悪化で、D Iでは $\Delta 28.6$ となっている。小売業は16.7ポイント好転し、D Iでは $\Delta 33.3$ 。サービス業では12.5ポイント改善し、D Iでは $\Delta 12.5$ である。建設業でも14.3ポイントの改善となり、D Iでは $\Delta 28.6$ 、卸売業は横ばいでD Iでは $\Delta 12.5$ にとどまっている。

●来期(28年10～12月期)の見通し（前年同期比）

全産業合計の業況D Iは今期と比較して11.0ポイント改善するものの、D Iでは $\Delta 29.0$ とマイナス域で横ばいのまま推移する見通しとなっている。

業種別の業況をみると、卸売業では21.4ポイント好転し、D Iは $\Delta 28.6$ 。サービス業では11.1ポイント好転し、D Iは $\Delta 11.1$ になる見通し。製造業では42.8ポイントと大幅に好転の見通しであるが、D Iでは $\Delta 28.6$ にとどまっている。小売業では11.1ポイント悪化、D Iでは $\Delta 44.4$ にとどまっている。建設業では、14.3ポイントプラスで $\Delta 14.3$ となる見通し。

〔売 上〕

全産業で見ると、今期と比較して7.5ポイントとやや好転し、D Iでは $\Delta 30.0$ となる見通しとなっている。業種別にみると、製造業と卸売業は好転、建設業とサービス業は横ばい、小売業のみ悪化となっている。製造業は14.3ポイントプラスでD Iは $\Delta 42.8$ 、卸売業では37.5ポイント好転し、D Iでは $\Delta 25.0$ 。建設業は、 ± 0.0 で $\Delta 28.6$ 、サービス業も ± 0.0 で、D Iでは $\Delta 11.1$ となる見通し。唯一小売業のみ11.1ポイントの悪化となり、D Iでは $\Delta 44.4$ の見通し。

〔採 算〕

全産業で見ると、今期と比較して10.0ポイント改善し、D Iでは△30.0となる見通し。

業種別にみると、卸売業では37.5プラスと改善し、D Iでは±0.0まで回復する見通し。サービス業では11.1ポイント改善、D Iは△11.1である。小売業は±0.0で、D Iでは△44.4にとどまる見通し。建設業ではマイナス28.6ポイントの悪化となり、D Iは△42.9まで悪化する見通し。製造業では28.6ポイントと改善するも、D Iは△57.1と厳しい状況が続く見通し。

〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期と比較して2.5ポイントと小幅の悪化となり、D Iでは△25.6の見通しとなっている。

業種別にみると、サービス業では12.5ポイントプラス、D Iは±0.0と予想。建設業と卸売業は横ばいで、建設業はD I △28.6、卸売業ではD I △12.5とマイナス域で推移する見通し。製造業は14.3ポイント悪化、小売業も11.1ポイント悪化。

●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、前年同期(27年7～9月期：23.7%)と比較して3.7ポイント低下しているが、前期(28年4～6月期)での予想の18.4%と比較して20.0%の実績となり、わずかながら上回る結果となった。投資状況を業種別で見ると、建設業と製造業がともに42.9%と比較的活発に行われている。

来期については全体で17.5%となっており、若干落ち着くと方向となっている。

●経営上の問題点

サービス業と建設業を除く3業種では1位に変化はなく、前回調査と同じ内容だった。業種別にみると、建設業では1位が「熟練技術者の確保難」。2位は前回と変わらず「民間需要の停滞」、3位は「官公需要の停滞」となった。製造業では、1位は変わらず「需要の停滞」。2位は「生産設備の不足・老朽化」、3位が「製品ニーズの変化への対応」「取引条件の悪化」となった。卸売業では、1位「需要の停滞」に変化はないものの、2位には、「新規参入業者の増加」、3位には前回2位の「従業員の確保難」が入った。小売業では、前回と前々回の結果と同様に、1位に「消費者ニーズの変化への対応」、2位に「購買力の他地域への流出」「需要の停滞」が入り、3位「同業者の進出」となった。サービス業では、前回1位の「需要の停滞」と前回3位の「熟練従業員の確保難」が入れ替わり、2位には「店舗施設の狭隘・老朽化」が新たに追加となっている。

業 種 別 D I 値 表 平 成 2 8 年 7 ～ 9 月 期

	回答企業数	業 況		売 上		採 算		資金繰り		採算(今期経常利益)
		①	②	①	②	①	②	①	②	
全 産 業	40	△40.0	△29.0	△37.5	△30.0	△40.0	△30.0	△23.1	△25.6	2.5
建 設 業	7	△28.6	△14.3	△28.6	△28.6	△14.3	△42.9	△28.6	△28.6	0.0
製 造 業	7	△71.4	△28.6	△57.1	△42.8	△85.7	△57.1	△28.6	△42.9	0.0
卸 売 業	8	△50.0	△28.6	△62.5	△25.0	△37.5	0.0	△12.5	△12.5	12.5
小 売 業	9	△33.3	△44.4	△33.3	△44.4	△44.4	△44.4	△33.3	△44.4	△22.2
サービス業	9	△22.2	△11.1	△11.1	△11.1	△22.2	△11.1	△12.5	0.0	22.2

① 前年同期(平成27年7月～9月)と比較した今期(平成28年7月～9月)の状況

② 前年同期(平成27年10月～12月)と比較した来期(平成28年10月～12月)の見通し

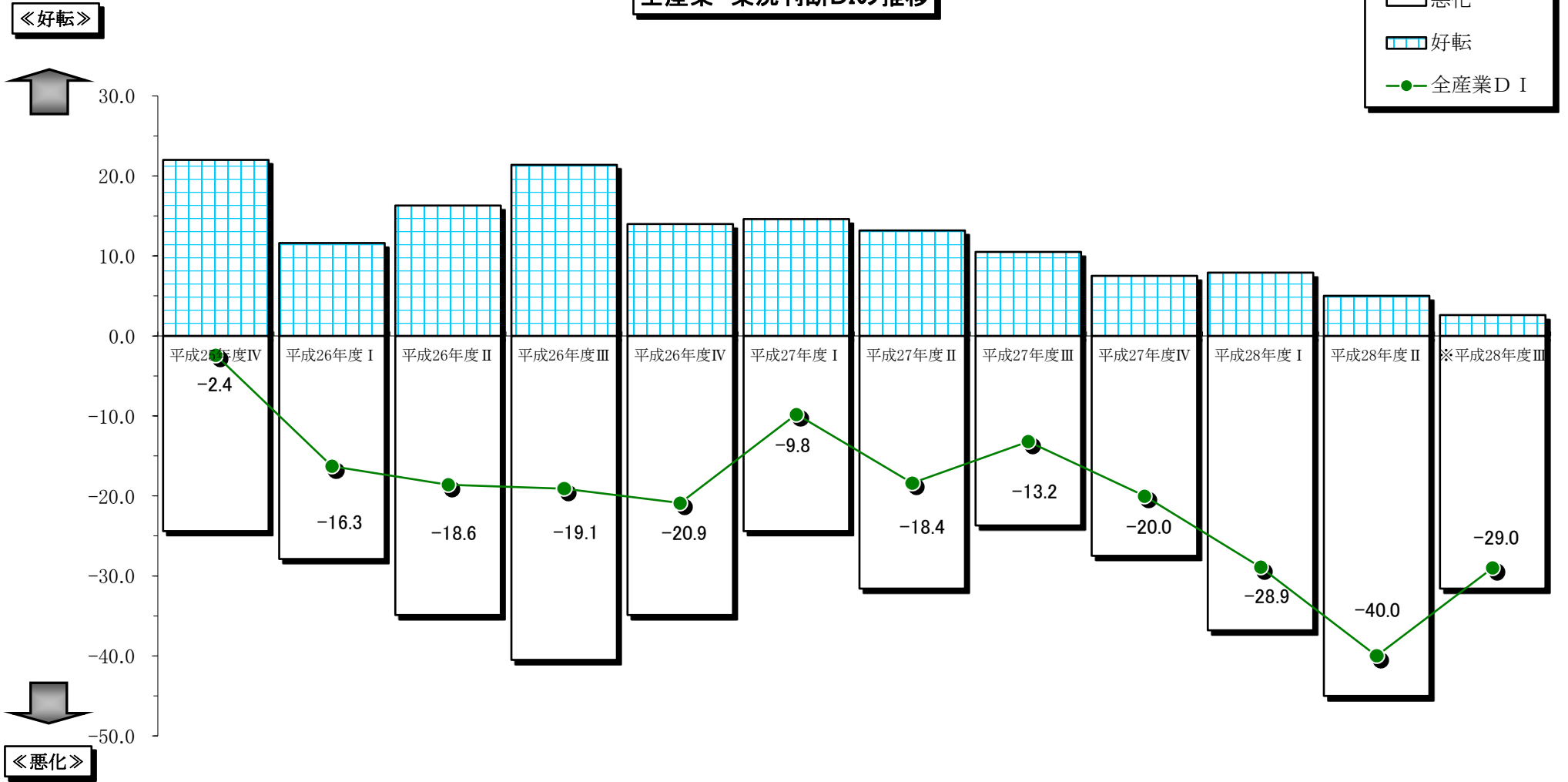
直面している経営上の問題点

産 業	1 位	2 位	3 位
建 設 業	熟練技術者の確保難	民間需要の停滞	官公需要の停滞
製 造 業	需要の停滞	生産設備の不足・老朽化	製品ニーズの変化への対応／取引条件の悪化
卸 売 業	需要の停滞	新規参入業者の増加	従業員の確保難
小 売 業	消費者ニーズの変化への対応	購買力の他地域への流出／需要の停滞	同業者の進出
サービス業	熟練従業員の確保難	店舗施設の狭隘・老朽化／材料等仕入単価の上昇／従業員の確保難	需要の停滞

設備投資を今期実施した 20.0 %

設備投資を来期計画している 17.5 %

全産業 業況判断DIの推移



【業況判断DI】

〈好転〉、〈不変〉、〈悪化〉の選択肢のうち、〈好転〉と答えた企業の割合から〈悪化〉と答えた企業の割合を差し引いた値。

I…4～6月期、II…7～9月期、III…10～12月期、IV…1～3月期

※前年度同期（平成27年10～12月）と比較した来期（平成28年10～12月）の見通し